



# 令和2年度大槌町行政評価報告書

(第9次大槌町総合計画・令和元年度実施計画)

---

■事務事業評価

■施策評価

■外部評価

---



# 目 次

1	大槌町行政評価制度の概要	1
2	行政評価の目的	2
3	行政評価の方法	3
4	評価項目と目安	4
<b>5</b>	<b>事務事業評価結果の概要</b>	
(1)	総合評価の結果	6
(2)	今後の方針/改善についての評価結果	7
<b>6</b>	<b>施策評価結果の概要</b>	
(1)	施策別指標の結果	8
(2)	施策の総合評価結果	8
【別表 1】	施策別指標結果	9
【別表 2】	施策評価結果	10
<b>7</b>	<b>外部評価結果の概要</b>	
(1)	目的と役割	11
(2)	開催日時等	11
(3)	評価の視点	11
【別表 3】	令和 2 年度大槌町総合開発計画評価委員会 名簿	12
(4)	評価委員による意見	13
【資 料】	大槌町総合開発計画評価委員会 設置要綱	19
【資 料】	大槌町総合開発計画評価委員会 説明資料	別添

## 1 大槌町行政評価制度の概要

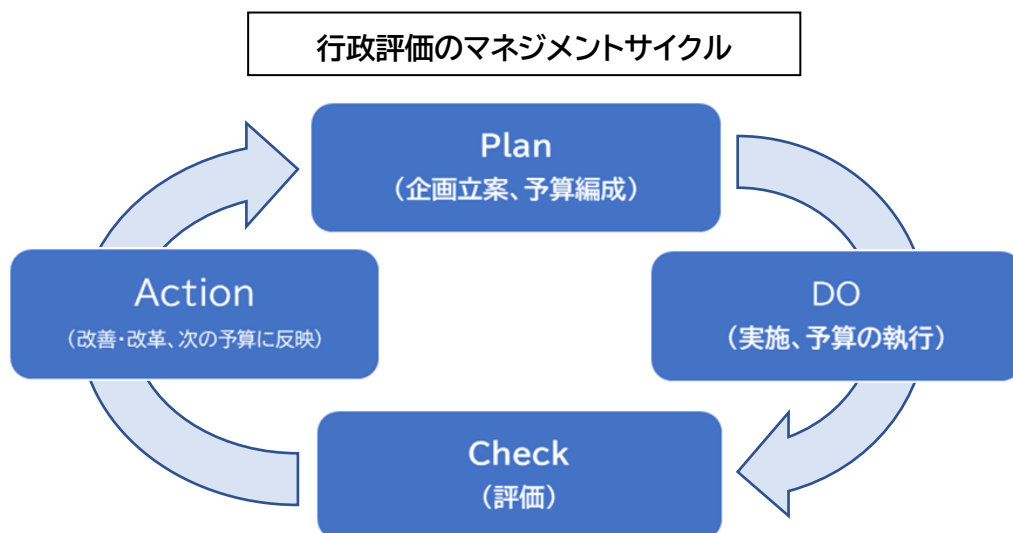
行政評価制度とは、行政活動を統一的な視点や手段によって客観的に評価し、限られた行政資源（ヒト、モノ、カネ）を有効に活用し、図表1のようにマネジメント（経営）サイクルを機能させ、効率・効果的な行政運営を目指すものです

町では、平成30年度に「第9次大槌町総合計画」を策定し、同計画に掲げる将来像『魅力ある人を育て、新しい価値を創造し続けるまち大槌』の実現に向けて、6つの基本方針を定め、令和元年度から、基本方針に基づいた各分野の施策と、それを構成する事業等に取り組んでいるところです。

総合計画で掲げる町の将来像を実現するために定めた、まちづくりの基本方針と、それを進めるための各施策、及び施策を構成する事務事業（実施計画）について、それぞれの目標がどの程度達成されているのか、または、それぞれの上位目的にどの程度貢献しているのかなど、計画の進行管理を行うとともに、厳しい行財政環境の中で、「あれもこれも」ではなく、「あれかこれか」といった「選択と集中」を考えるためのツールとして、目標の見直しや、施策・事務事業の改善に向けた取り組みです。

### 【図表1 PDCAサイクル】

行政評価に「Plan（企画立案、予算編成）」、「DO（実施、予算の執行）」、「Check（評価）」、「Action（改善・改革、次の予算に反映）」というマネジメントサイクルを組み込むことにより、成果を重視した、町民満足度の高い行政の実現を目指します。



## 2 行政評価の目的

### (1) 成果を重視した効率的な行政経営の推進

PDCA サイクルで、事業の目指すべき成果がどの程度達成されているかなど、明らかにし、継続的に事業の改善を図りながら、成果重視の行政運営を推進します。

### (2) 行政の説明責任の向上

行政が実施する活動の目的、目標の達成状況、評価結果等を町民に対し、分かりやすく説明することにより、行政活動の透明性を図り行政の説明責任を向上させます。

### (3) 町民の視点に立った行政サービスの向上

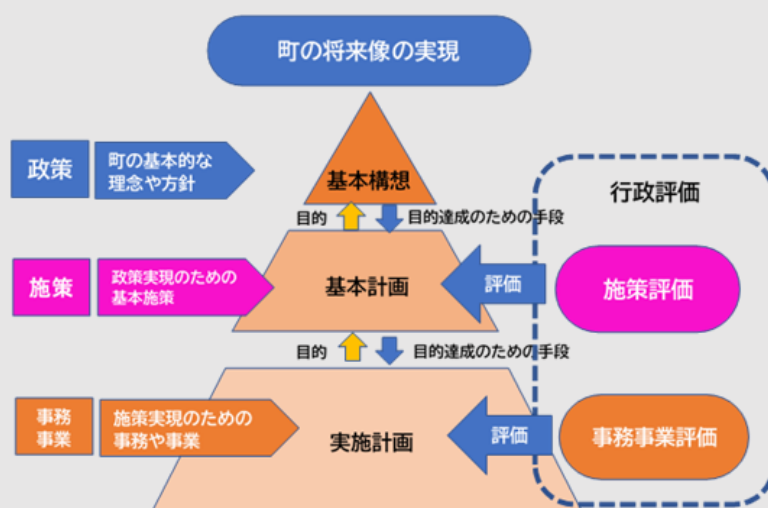
行政が果たすべき役割と行政活動への町民のニーズの高まりに的確な対応を図るため町民の視点で実施されているか確認し町民と行政の協働による行政運営を目指します。

### (4) 職員の意識改革

行政活動の成果や達成度、要した費用などを明らかにすることにより、行政運営に経営感覚を取り入れ、職員一人ひとりの目的意識、コスト意識等の意識改革を図るとともに、評価結果を行政活動の見直しや新たな企画立案に反映させるなど、政策形成能力の向上を図ります。

総合計画は、そこに掲げる町の将来像の実現のため、政策、施策、事務事業の体系を持っています。

そして、政策は施策と、施策は事務事業と目的と手段の関係で結ばれ、事務事業目標の達成が施策目標の達成に、施策目標の達成が、政策目標の達成につながり、最終的に町政の目的を実現するように設計されています。



### 3 評価の方法

#### 【事務事業評価】

令和元年度に実施した事務事業（250事業）について、成果の達成状況、有効性、効率性等を自己評価して、次年度以降の方針や改善策の検討を行いました。

##### （１） 一次評価

対象事業：令和元年度に実施した事務事業（250事業）

評価者：担当者、担当班長、所属長

評価項目：①必要性、②有効性、③効率性、④総合評価、⑤今後の方針・改善

評価手順：担当者と担当班長による①必要性、②有効性、③効率性、④総合評価の評価後、所属長による④総合評価（再評価）、⑤今後の方針・改善の立案。

##### （２） 二次評価

対象事業：一次評価結果のうち次に該当する事業（88事業）

- a. 新規事業（施設整備などのハード事業で整備後、維持管理が生じるものは維持管理費を新規事業として対象とする。）
- b. 一次評価で休止・中止予定または廃止予定の評価となった事業
- c. 普通建設事業
- d. 1件50万円を超える備品購入費及び修繕費
- e. 下記に係る事業
  - ・一部事務組合が実施する事業
  - ・国、県等が町域内で実施及び本町に関連して実施する主要事業
- f. その他、政策的な施策に係るもの。（地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金等、交付要件において外部評価が必要な事業など。）

評価者：三役（町長、副町長、教育長）、補助（参与、技監）

評価項目：総合評価、今後の方針・改善

評価手順：評価者による一次評価結果の確認と二次評価対象事業を所属長ヒアリング形式で実施。

#### 【施策評価】

事務事業評価の結果等を踏まえ、施策ごとに、その展望の実現に向けてどのように取り組まれたかを総合的に評価します。

評価者：三役（町長、副町長、教育長）

評価項目：施策の展望の実現に向けた取り組み。

評価手順：三役による総合評価。

## 4 評価項目と目安

### 【事業評価の目安】

#### (1) 必要性（5 択）

〔視点〕社会経済情勢の変化や町民ニーズ（課題）に対応しているか。

5 点	・法令等により町が実施を義務づけられている事業 ・町民が最低限の社会生活を営む上で必要とする生活環境の確保を目的とした事業
4 点	・社会的、経済的弱者を対象に生活の安定を支援するための社会保障事業 ・町民の生活・財産・権利を擁護し、あるいは不安を解消するために必要な規制、監視指導、情報提供、相談などを目的とした事業
3 点	・不特定多数に受益が及び、サービス対価の徴収ができない事業 ・民間では供給主体が存在しない事業 ・サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている事業
2 点	・民間サービスだけでは、サービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しいため、これを補完、先導する事業 ・社会経済の環境変化により予想される課題に対応するための事業
1 点	民間で十分供給されており、町の関与が不要又は低下している事業

#### (2) 有効性（5 択）

〔視点〕目標や目的が達成しているか、または効果や成果の達成はされているか。

5 点	目標に対して期待を上回る。(指標を基準にする場合の目安、達成率105%以上)
4 点	目標に対して期待通り(指標を基準にする場合の目安、達成率90%以上105%未満)
3 点	目標に対して期待をやや下回る(指標を基準にする場合の目安、達成率70%以上90%未満)
2 点	目標値に対して期待を下回る(指標を基準にする場合の目安、達成率70%未満)
1 点	実施しなかった(できなかった)

#### (3) 効率性（5 択）

〔視点〕投入された行政資源に見合った行政活動が実施されているか。または改善点はあるか。

5 点	効率よく実施している
4 点	若干改善の余地があるが、概ね効率よく実施している
3 点	改善の余地あり
2 点	大きく改善の余地あり
1 点	効率は良くないが、改善の見込みが立たない

#### (4) 総合評価（5 択）

各評価項目（必要性、有効性、効率性）の合計点を参考に、 その他要因等を考慮し、  
総合的な判断を5段階（S～D）で評価します。

S	極めて貢献度が高い(合計評価点14～15)
A	相当程度に貢献度が高い(合計評価点11～13)
B	一定の貢献度が認められる(合計評価点8～10)
C	貢献度が低い(合計評価点5～7)
D	貢献していない(合計評価点4以下)

#### (5) 方針・改善（9 択）（事後評価）

翌年度以降の事業について、今後の方針・方向性を課室長が評価します。

1	現状維持
2	拡大・拡充して継続
3	改善して継続
4	効率化して継続
5	縮小・統合して継続
6	その他要件で継続
7	事業完了
8	休止予定(休止の時期、激減緩和措置設定の有無)
9	廃止予定(廃止の時期、激減緩和措置設定の有無)

### 【施策評価の目安】

#### 施策の総合評価（5 択）

S	施策の展望の実現に向けて積極的な取り組みが進められた。
A	施策の展望の実現に向けて一定の取り組みが進められた。
B	施策の展望に対して適切に取り組んでいる。
C	施策の取り組みの一部に改善を要する。
D	施策の取り組みの大幅な改善を要する。

## 5 事務事業評価結果の概要

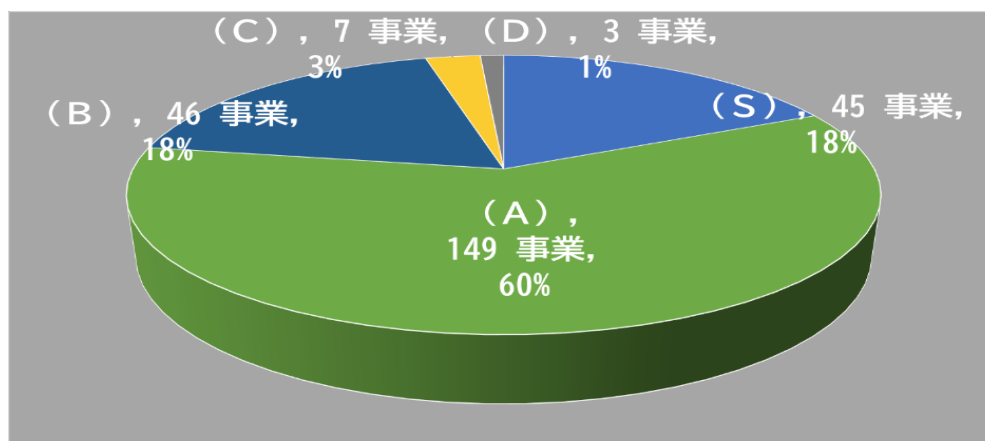
### (1)総合評価の結果

令和元年度事務事業（250事業）の内部評価の結果は、施策への貢献度が相当程度あると評価する「A評価」が149事業で全体の約60%で、全体で最も多く割合を占めている。次いで一定の貢献度と認められる「B評価」が46事業で全体の約18%、極めて貢献度が高いと評価する「S評価」は45事業で全体の約18%で、「S評価」から「B評価」を合わせて240事業（96%）が、それぞれの施策に貢献度が認められたと評価しています。

一方で、貢献度が低いと評価する「C評価」は7事業（全体の約3%）で、貢献していないとする「D評価」の3事業（約1%）という結果であった。

さらに、貢献していないと評価する「D評価」の3事業のうち、2事業は令和元年度で事業が「完了」又は「廃止」となっている。

【総合評価結果】



ランク	ランク基準の目安	事業数	構成比
S	極めて貢献度が高い	45	18%
A	相当程度に貢献度が高い	149	60%
B	一定の貢献度が認められる	46	18%
C	貢献度が低い	7	3%
D	貢献していない	3	1%



## (2)今後の方針・改善についての評価結果

今後の方針・改善については、9つの選択肢のうち、「継続」が最も多い179事業（72%）、次いで「完了」が24事業（10%）、「改善」（改善して継続）が15事業（6%）、「廃止」が12事業（5%）、「縮小・統合」が6事業（2%）となり、「拡大・拡充」、「その他」が各5事業（2%）、「効率化」が4事業（2%）という結果でした。

拡大・拡充、改善、効率化、縮小・統合を含むと「継続」が、全体の85.6%（214事業）、となりました。（「休止」はなし。）

### ・「完了」事業について

「完了」となった24事業それぞれの総合評価において、「貢献度が高い」（A）が21事業、「一定の貢献度が認められる」（B）が1事業、「貢献していない」（D）が1事業でした。

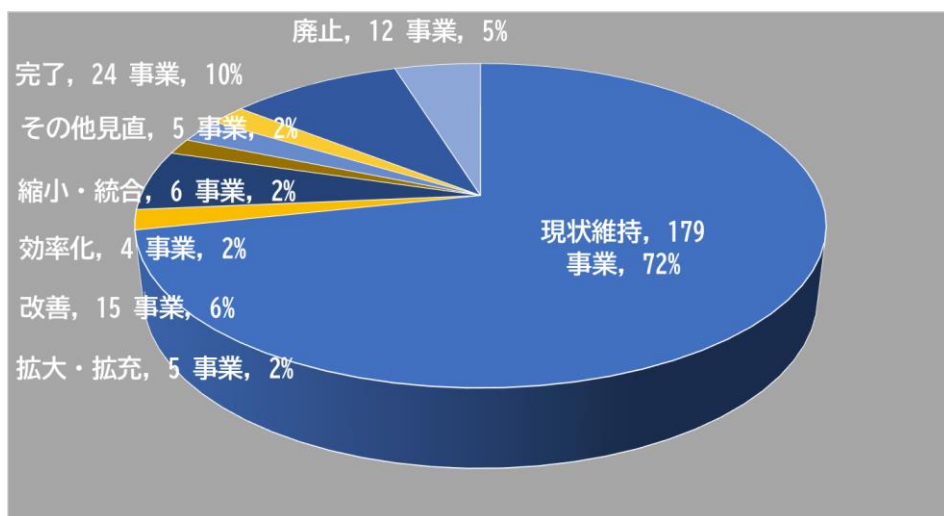
「完了」事業のほとんどの事業が順調に実施されたという評価となりました。

### ・「廃止」事業について

「廃止」が選択された11事業のうち、被災者支援及び中小企業の再建に向けた支援事業が10事業であり、仮設住宅の終了など、支援の終了に伴い事業の廃止となりました。

廃止となる事業の総合評価は、（S）5事業、（A）4事業、（B）2事業でした。

### 【方針・改善】



方針・改善		事業数	構成比
1	現状維持	179	72%
2	拡大・拡充して継続	5	2%
3	改善して継続	15	6%
4	効率化して継続	4	2%
5	縮小・統合して継続	6	2%
6	その他要件で継続	5	2%
7	事業完了	24	10%
8	休止予定	0	0%
9	廃止予定	12	5%

## 6 施策評価結果の概要

### (1) 施策別指標の結果

目標値の方向性と、これに対する実績値の動向について（増加↑、維持→、減少↓）確認を行いました。【別表1】

#### 【目標値の方向性】

- ①**増加** ↑・・・基準値に対して増加（魚市場水揚げ高、観光客入込数、自治会組織数など）
- ②**維持** →・・・基準値を維持（児童数、高校学級数、消防団員数など）
- ③**減少** ↓・・・基準値に対して下げる（待機児童数、一人あたり医療費、交通事故件数など）

#### 【実績値の動向】

- ①目標値の方向性と同じ方向である場合（横ばい（→）の目標に対して実績値上方向（↑）含む）  
・・・R5年度の目標に向かって推移している。
- ②目標値の方向性と違う方向に向いている場合・・・基準値を下回って推移している。または横ばい。

#### 【令和元年度の結果】

目標指標の49項目のうち、目標の方向と指標の推移が確認された項目は、31項目で全体の63.3%を占めていた。一方、目標の方向と異なった方向に推移している項目は18項目で全体の36.7%であった。

### (2) 施策の総合評価結果

三役による、施策評価では、施策の展望に向けて特に積極的な取り組みが進められたと評価する2施策が「S評価」で、一定の取り組み進められたと評価された7施策は、「A評価」で、その他の16施策は、適切に取り組んでいるB評価となりました。【別表2】

#### 【施策評価結果】

評価者：三役

施策数：全25施策

S	施策の展望の実現に向けて積極的な取り組みが進められた。	2 施策
A	施策の展望の実現に向けて一定の取り組みが進められた。	7 施策
B	施策の展望に対して適切に取り組んでいる。	16 施策
C	施策の取り組みの一部に改善を要する。	—
D	施策の取り組みの大幅な改善を要する。	—

## 【別表1】施策別指標結果

施策 No.	基本方針(章)／基本施策(節)	指標	単位	基準値	目標値 (R5年度)	目標値 の方向	R1実績	実績値 の方向
第1章 産業を振興し町民所得を向上させるまちづくり								
1	第1節 おおつちの自然を活かし、継承する一次産業の実現	①農地高活用転換面積	ha	5,212	10	↗	5,612	↗
		②大槌魚市場水揚額	千円/年	367,172	687,196	↗	111,078	↘
		③第一次産業新規就業者数	人	6	12	↗	2	↘
2	第2節 働きやすく骨太なおおつちの商工業の推進	①一人当たりの市町民所得の県内順位	位	15	13	↗	11	↗
		②釜石・大槌地域への新卒者就職率	%	55.2	60	↗	55.4	→
3	第3節 おおつちらしい観光物産戦略の展開	①観光客入込数	人	103,308	130,000	↗	121,735	↗
第2章 健康でめくもりのあるまちづくり								
4	第1節 地域福祉の推進	①自治会・町内会等の組織数	団体	21	28	↗	22	↗
		②民生委員・児童委員充足率	%	73	100	↗	78	↗
		③ボランティア登録者数	人	36	80	↗	37	↗
5	第2節 子育て環境の充実	①児童数(11歳以下)	人	938	938	→	935	↘
		②待機児童数(4月現在)	人	2	0	↘	0	↘
6	第3節 健康づくりの推進	①標準化死亡率(総死亡)	—	113.9	105.7	↘	139.2	↗
		②要介護2以上の認定率(5年平均)	%	11	11	→	11	→
7	第4節 高齢者支援の推進	①大槌町高齢者等見守りネットワーク協定締結事業者数	事業者	50	60	↗	62	↗
		②認知症サポーターの育成数	人	1,877	2,800	↗	2,246	↗
8	第5節 障がい福祉の推進	①施設入所者数	人	48	46	↘	52	↗
		②施設利用者の一般就労移行者数(人/年)	人	4	6	↗	1	↘
9	第6節 医療の充実	①休日・夜間救急診療体制対応日数	日	365	365	→	366	→
		②国民健康保険加入者一人当たり医療費	円	433,501	363,302	↘	446,749	↗
第3章 学びがふるさとを育てふるさとが学びを育てるまちづくり								
10	第1節 生涯を通してつながる学びの推進	①自己肯定感を持った児童生徒の割合	%	69	77	↗	61	↘
		②公民館(分館)活動等事業参加者数	人	3,704	5,000	↗	2,139	↘
11	第2節 地域へと広がる魅力的な学びの場づくり	①大槌高校の学級数	学級	2	2	→	2	→
		②学校ボランティアの受入数	人	158	170	↗	157	↘
		③放課後学習施設登録児童数の割合	%	22	25	↗	19	↘
12	第3節 町民の学習活動の推進	①芸術文化・文化財事業参加者数 (町民文化祭・郷土芸能祭等)	人	1,411	2,000	↗	1,592	↗
		②体育施設利用件数	件	3,294	4,000	↗	3,080	↘
		③図書館来館者数	人	3,533	15,875	↗	32,533	↗
		④図書貸出冊数	冊	8,734	19,373	↗	28,019	↗
13	第4節 学ぶ環境の整備	①学校における校舎内内外の安全点検の回数	回	12	12	→	12	→
		②教員の職場環境に対する非ストレス度	%	85	85	→	91	↗
14	第5節 震災伝承による防災文化の醸成	①震災伝承展示物の更新	回	1	2	↗	3	↗
第4章 安全性と快適性を高めるまちづくり			0					
15	第1節 災害に強いまちづくりの推進	①地区防災計画作成済組織数	組織	3	6	↗	0	↘
		②防災に関する研修実施数	回	14	20	↗	27	↗
		③防災訓練実施数	回	11	20	↗	20	↗
		④消防団員数	人	168	168	→	162	↘
		⑤訓練・講習会実施数	回	40	45	↗	168	↗
16	第2節 良質な自然環境の保全と環境衛生の向上	①1人1日あたりのごみの排出量	g	937	690	↘	942	↗
17	第3節 快適な住環境の実現	①町内の交通事故件数	件	20	0	↘	2	↘
		②大槌町インターネット施設加入率	%	38	45	↗	41	↗
		③水道管耐震化率	%	26	32	↗	38	↗
		④下水道水洗化率	%	68	82	↗	83	↗
18	第4節 利便性の高いネットワークの整備	①道路舗装率	%	43.2	44.0	↗	46.0	↗
		②大槌駅乗車人数	人	235	238	→	124	↘
第5章 将来を見据えた持続可能なまちづくり								
19	第1節 協働による地域・まちづくりの推進	①自治会・町内会等の組織数	団体	21	28	↗	22	↗
		②Uターン総合相談窓口を活用した移住者数	人	331	361	↗	288	↘
		③地方自治法に基づく審議会等の女性比率	%	18	24	↗	25	↗
20	第2節 健全な財政運営の推進	①財政健全化判断比率の実質公債費率	%	9.9	15.0	↗	12.1	↗
		②地方税の収納率	%	97.8	97.8	→	98.8	↗
21	第3節 成果を重視した行政運営の構築	①職員研修の実施回数	回	3	7	↗	4	↗
第6章 未来につなげる着実な復興まちづくり								
22	第1節 事業者の本設再建と産業の再生	—(設定なし)	—	—	—	—	—	—
23	第2節 支え合い誰もが暮らし続けられる地域社会づくり	—(設定なし)	—	—	—	—	—	—
24	第3節 未来の大槌人の育成/文化の再生と知の継承	—(設定なし)	—	—	—	—	—	—
25	第4節 魅力ある持続可能なまちづくり/地域資源としての風景の再生	—(設定なし)	—	—	—	—	—	—

## 【別表2】施策評価結果

施策 No.	基本方針(章)／基本施策(節)	三役評価	
		総合評価	評価理由
第1章 産業を振興し町民所得を向上させるまちづくり			
1	第1節 おおつちの自然を活かし、継承する一次産業の実現	S	海面養殖やジビエの利活用など、官民一体となって積極的に取り組んでいる。また、一次産業の活性化と6次化産業の推進に向けて活発に取り組んでいることから、S評価とした。
2	第2節 働きやすく骨太なおおつちの商工業の推進	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
3	第3節 おおつちらしい観光物産戦略の展開	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
第2章 健康でぬくもりのあるまちづくり			
4	第1節 地域福祉の推進	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
5	第2節 子育て環境の充実	A	子育てサービスを利用する世代に経済的・精神的な負担の軽減が図られたことから、A評価とした。
6	第3節 健康づくりの推進	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
7	第4節 高齢者支援の推進	A	認知症に対する支援体制や各種取り組みでは、法制度の円滑な利用に繋がる取り組みが進められたことから、A評価とした。
8	第5節 障がい福祉の推進	A	障がい者に対する支援体制や各種取り組みでは、法制度の円滑な利用に繋がる取り組みが進められたことから、A評価とした。
9	第6節 医療の充実	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
第3章 学びがふるさとを育てふるさとが学びを育てるまちづくり			
10	第1節 生涯を通してつながる学びの推進	A	大槌型教育(ふるさと科)で、世代を超えたつながりと地域とのつながりを、積極的に取り組んだことから、A評価とした。
11	第2節 地域へと広がる魅力的な学びの場づくり	S	様々な分野で地域に広がる独自の学び場と、町内の高等教育学校との連携は、教育機関と関係団体・地域・行政が一体となって積極的に進められたことから、S評価とした。
12	第3節 町民の学習活動の推進	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
13	第4節 学ぶ環境の整備	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
14	第5節 震災伝承による防災文化の醸成	A	ふるさと科学習で「震災記録誌」の活用や、震災伝承施設において親子で学ぶ機会の創出など、震災伝承を積極的に取り組んだことから、A評価とした。
第4章 安全性と快適性を高めるまちづくり			
15	第1節 災害に強いまちづくりの推進	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
16	第2節 良質な自然環境の保全と環境衛生の向上	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
17	第3節 快適な住環境の実現	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
18	第4節 利便性の高いネットワークの整備	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
第5章 将来を見据えた持続可能なまちづくり			
19	第1節 協働による地域・まちづくりの推進	A	当町の人口動態では、社会減の状況であるものの、Uターンを希望している者に、きめ細かな相談対応を積極的に取り組んでいることから、A評価とした。
20	第2節 健全な財政運営の推進	A	自主財源の確保のほか特産品贈呈においては、町産品のPRとあわせ、特産品の掘り起こしなど積極的に取り組んでいることから、A評価とした。
21	第3節 成果を重視した行政運営の構築	B	適切に取り組んでいることから、B評価とした。
第6章 未来につなげる着実な復興まちづくり			
22	第1節 事業者の本設再建と産業の再生	B	着実に復興の完遂を目指し、取り組んでいることから、B評価とした。
23	第2節 支え合い誰もが暮らし続けられる地域社会づくり	B	着実に復興の完遂を目指し、取り組んでいることから、B評価とした。
24	第3節 未来の大槌人の育成/文化の再生と知の継承	B	着実に復興の完遂を目指し、取り組んでいることから、B評価とした。
25	第4節 魅力ある持続可能なまちづくり/地域資源としての風景の再生	B	着実に復興の完遂を目指し、取り組んでいることから、B評価とした。

## 7 外部評価結果の概要

(大槌町総合開発計画評価委員会による意見等)

### (1) 目的と役割

評価委員会は、町が実施する行政評価の客観性及び透明性を確保するとともに、効率的かつ効果的な町政運営の推進ため、大槌町行政評価実施要項第6条の規定に基づき設置されるもので、評価委員会は、町が実施した行政評価について、町民の視点で必要な意見及び行政評価制度の改善について意見を述べます。

### (2) 開催日時等

会議名称	大槌町総合開発計画評価委員会
開催日時	令和2年8月19日(水) 10:00~12:00
開催場所	大槌町役場 3階 大会議室
出席者	<p>【委員】菊池良一委員 平野榮紀委員 大萱生都委員 芳賀政和委員 佐々木重吾委員 徳田信也委員 千代川茂委員 岩間利夫委員 木村里美委員 植田俊郎委員(欠席)</p> <p>【町】町長、副町長、教育長、参与、技監、事業担当所属長 (事業担当所属長は随時出席)</p>

※委員名簿：【別表3】参照

### (3) 評価の視点

評価委員会では、町が実施した実施計画に掲げる、施策を構成する事務事業及び施策評価の結果を基に、行政評価の4つの目的、「成果を重視した効率的な行政経営の推進」、「行政の説明責任の向上」、「町民の視点に立った行政サービスの向上」、「職員の意識改革」を踏まえ、(1)「目標の達成状況」、(2)「内部評価結果」、(3)「今後の方向性」の3つの視点での意見をまとめて町に報告します。

【別表3】令和2年度大槌町総合開発計画評価委員会 名簿

役職		所属等	氏名
1	委員長	大槌商工会 会長	菊 池 良 一
2	副委員長	新おおつち漁業協同組合 代表理事組合長	平 野 榮 紀
3	委員	大槌町教育委員会教育委員	大 萱 生 都
4	委員	ど真ん中おおつち協同組合 代表	芳 賀 政 和
5	委員	花巻農業協同組合 大槌地区担当理事	佐 々 木 重 吾
6	委員	社会福祉協議会 会長	徳 田 信 也
7	委員	観光交流協会 会長	千 代 川 茂
8	委員	釜石医師会 副会長	植 田 俊 郎
9	委員	交通安全協会 会長	岩 間 利 夫
10	委員	大槌町女性団体連絡協議会 事務局長	木 村 里 美

## (4) 評価委員による意見

### ① 施策別の意見

#### ＜第1章＞「産業を振興し町民所得を向上させるまちづくり」

##### ＜第1章-第1節＞「おおつちの自然を活かし、継承する一次産業の実現」

###### ●水産業について

民間との共同事業による銀鮭とトラウトサーモンの海面養殖やジビエの活用、磯焼け対策事業等、危機的な一次産業の状況打開のため、活性化策に積極的に取り組んでいる。

今後の課題として、ブランド化のための年間を通じた出荷体制の構築や販路の開拓等が考えられる。磯焼け対策も含め、すぐに結果が出るものではないので、数年先を見据えて取り組んでいく必要がある。

###### ●農産物生産振興について

令和元年度、ピーマンの栽培が順調に推移し、増設の予定であることなどから一定の成果があったと考える。

また、それに伴い新規就農者の支援についても、ピーマンの栽培に新規雇用二人、さらに二人増員の見込みが出ていること、農福連携による雇用の拡大など効果が上がっていることで、これらの定着が図られることを期待する。

##### ＜第1章-第2節＞「働きやすく、骨太なおおつちの商工業の推進」

###### ●商工業への対策について

昨年12月にオープンした「まるまる横丁」は、直後に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて休業となったが、その後、飲食店向けのプレミアム商品券の発行により、盛況となり効果があった。

また、中小企業向けの交付金、補助金が功を奏して、倒産企業が一件もなかったということは、商工業としては、非常に助かったと考えており、町の取り組みには敬意を表したい。

##### ＜第1章-第3節＞「おおつちらしい観光物産戦略の展開」

###### ●観光物産戦略について

新型コロナウイルス感染症により観光が厳しい中で、岩手県で第一号となる宿泊割の施策があり、これが非常に好評であった。

コロナ禍によってオリンピックが延期になりサウジアラビア王国のホストタウンも延長となる。国際交流というところで、大槌は湧水の町なので、水を売るとか、湧水を使った化粧品を作るとか、大槌ならではのオンリーワンの、新しい産業を作るような施策も必要ではないかと考える。

産業、商業の方に力を入れてもらわないと何ともならない、色々と施策はあると思うが、引き続き、商工会と町が協力した取り組みに期待する。



## ＜第2章＞「健康でぬくもりのあるまちづくり」

### ＜第2章-第1節＞「地域福祉の推進」

#### ●民生委員の欠員について

現在、これを補っている生活支援相談員の来年度以降の国の補助が不透明であり、また新しい民生委員のなり手がいないという課題がある。

民生委員・児童委員の充足率について、100%になるように一層の努力を期待する。

#### ●自治会・町内会の立ち上げについて

社会福祉協議会と連携を図りながら一層の努力を期待する。

### ＜第2章-第2節＞「子育て環境の充実」

#### ●子育て環境について

幼児教育無償化、保育無償化は保護者から感謝の言葉も聞かれており、効果的な取り組みであると考え。また、保育士確保支援事業については、保育士の確保が難しい状況から、継続すべき事業であり、専門職以外の方でも、子育て経験のある方や、地域の方のボランティアの協力とか、子供に対する保育の手を増やすようなことに取り組むことも検討すべきと考える。

待機児童対策については、就労するうえで重要なことなので、待機児童が出ないように継続した取り組みを期待する。

教育大綱にも0歳から18歳の幼保小中高と地域の一貫した教育ということが謳われているので、地域、教育と関係機関の連携が大事なポイントになると考える。

### ＜第2章-第3節＞「健康づくりの推進」

#### ●健康推進について

管内では、保健師の活動も活発で、予防接種率が高いことなど、他市町村との比較でも評価は高いものとする。

### ＜第2章-第4節＞「高齢者支援の推進」

#### ●高齢者支援について

高齢者の受け皿確保のため、町の支援を受けて稼働している小規模多機能施設については、利用者が徐々に増えてきているが、職員の確保が難しいという課題があるため、高齢者の活用も含め人材確保に取り組む必要があると考える。

認知症サポーター育成数については、目標値に対して、1年間で400人というのは順調なスタートではないかと考える。

「井戸端会議」は、各地区で数多く開催し、地域住民の啓発活動を図ることができれば、住民の方も支えてくれるということになると思うので、継続して取り組むことを期待する。



## ＜第2章-第6節＞「医療の充実」

### ●地域医療について

町は、小児検診時に小児救急啓発活動により、救急外来の使い方について啓発活動を積極的に行っており、これは小児科医の疲弊を防ぐことにつながる活動であるので、このような活動は評価されても良いと考える。

少子高齢化が進み、県立病院の縮小化など、専門医も少なくなってくるなど、地域医療は危機的な状況へと向かっているので、医療や福祉についての施策、および若い医者への取り込みに対する施策も必要だと考える。

「安心して老後をおくれるまち」として、高齢者医療・福祉の充実した町を目指すことも必要なのではないかと考える。

## ＜第3章＞「学びがふるさとを育てふるさが学びを育てるまちづくり」

### ＜第3章-第1節＞「生涯を通してつながる学びの推進」

#### ●学びの推進について

新型コロナウイルス感染症対策によって登校できなくなった場合におけるインターネット授業も文科省からも提案されており、今後、情報通信技術教育を推進していくことが必要と考える。外部の専門機関と連携を持ちながら、学校の先生方にも負担が生じないような取り組みが必要と考える。

ふるさと科で「新巻づくり」の授業をしているが、手伝ってきた人たちの高齢化が進んでいるので、今後は若い人たちにも頑張ってもらいたいと期待している。

子供たちに、事前に授業内容の予備知識があるとより授業の体験が活きる所以、ある程度の説明をした上で参加させた方が効果的であるとする。

### ＜第3章-第2節＞「地域へと広がる魅力的な学びの場づくり」

#### ●教育と地域の協働について

協働については、すべての事業につながることであるとするが、仲間や理解者を増やして、一つずつ丁寧に課題を解決して、各事業に関心をもってもらうことが大切である。

新しい何かを始めるときは、リーダーのパワーあふれる勢いと思いなどがプラスに働いて、素晴らしい成果が生まれるが、今後大切になるのは、担当部署や関係がある町民だけではなく、継続した取り組みが必要とする。

「学びがふるさとを育て、学びがふるさとを育てていくまちづくり」という目標の中で、ふるさと科の授業や、各学校の取り組みがきっかけの一つとなり、さらに町民がつながり、生涯活動やボランティア活動などは、他の協働活動の取り組みに対してもプラスに働くことが多いことは実感としている。

大槌高校と町民のかかわりも、以前より活発になり、高校生の様子も日常的に見えるようになったことは、評価的にも大きいと考える。

新型コロナウイルス感染症の影響で、キャリア教育の重要ポジションである職場体験において、町内の約50社がかかわっている活動が中止になったが、先生方の発案で、「第9次大槌町総合計画」を教科書にして、議会事務局を通して、町会議員、町職員の協力で、子供たちなら、学び、調べ学習により、自分たちも一緒に大槌の未来を考えるという授業計画が組み立てられつつある。

新型コロナウイルス感染症で不安な時期、様々な工夫を凝らして教育にかかわっている教職員、教育関係者や協力対応する町民からのさらなる評価を期待したい。

教育は、成果が出るまで時間がかかるものなので、継続した取り組みになるようなバックアップが重要であり、これが評価にもなると考える。

高校魅力化推進事業としては、評価が高いが、これは、子供たちが頑張っていることでもあるので、継続した取り組みを期待する。

### ＜第3章-第4節＞「学ぶ環境の整備」

#### ●通学路の安全確保について

通学路の安全点検というのは、交通事故の側面ばかりではなく、声掛けや子供110番の家がどこにあるとか、ということを防犯の面からも点検し、児童に対し、「ここに110番の家があるから、何かあったらここに駆け込んでお店の人に話してください、家の人に話してください」というような指導も必要であると考えます。

#### ●「教職員の職場環境に対する非ストレス度」について

「教職員の職場環境に対する非ストレス度」において先生方の働く環境におけるストレス度が上がっている。

小中一貫校として、県内で初めての学園という意味でも、先生方も色々な苦勞をされているので、そこをサポートするよう、住宅の整備や研修の機会など、体制の充実が必要と考える。

#### ●学ぶ環境について

大槌町の教育大綱にもある「生まれ育つ環境に左右されず、学ぶことのできる機会の保証」、について、今後、経済的に大変な家庭が増えることが予測できるので、福祉と学校の連携の在り方について、考えることが必要であると考えます。

## ＜第4章＞「安全性と快適性を高めるまちづくり」

### ＜第4章-第1節＞「災害に強いまちづくりの推進」

#### ●避難所運営について

避難所運営というのは、役場職員だけでは到底、人数的に無理で、実際、役場職員もどこで、どういう災害に合うのかわからないので、運営そのものが非常に難しいと考える。

自主運営組織、自治会、町内会、地区の民生委員がかかわっていくのか、体制は協働でやっていかなければならないと考えるので、その点も検討の必要があると考える。

緊急時にどのように避難所の体制づくりをしていくのか、防災訓練の後の形ということで、協働で検討していくことが必要と考える。

#### ●ふるさと科の防災授業について

防災について、かなり、色々な学年で工夫を凝らした授業の展開をしているが、授業の評価という観点ではなく、危機管理室、コミュニティ支援室、保健福祉課、長寿課など、すべての課の協力で授業が成り立っているという点で、高く評価できると考える。

### ＜第4章-第3節＞「快適な住環境の実現」

#### ●交通事故件数について

指標の「町内の交通事故件数」の目標値0件について、初心者や高齢者の増加という現状から、発生件数が0件というのは、目標としては素晴らしいが、到底なしえない数字ではないかと考える。

発生件数ではなく、交通死亡事故0件の目標が適切ではないか。

#### ●ライフラインの耐震化について

最近の災害の突発的な発生状況から、スピードを上げて対応することを期待する。

#### ●防犯・安全の推進について

犯罪や事故のない安全・安心なまちづくりは、街灯とか防犯灯の設置が必要であるという観点から、各地区の自治会、町内会の要望を踏まえた対応に期待する。

## ② 全体的な意見について

---

### 1. 全体的な意見

評価委員会の委員は、一昨年に策定した総合計画で審議委員としてかかわっており、今回、このような形で計画の進捗状況などのご報告をいただくことは、透明性のある行政運営を目指し取り組んでいるものと感じております。

評価委員会では、町が取り組む各施策の自己評価内容を確認いたしましたが、会議時間の制約等により、十分な意見交換ができたとは確信できないものの、限られた時間内で、各委員が持つ専門的な知識や経験から必要な意見を述べることで出来たのではないかと感じています。

この行政評価は、震災後初めての取り組みであります。引き続き課題把握と解決策の検討を推し進め、後期計画の策定時まで継続した取り組みになることを願っております。

最後に、高校生や中学部9年生など、若い世代が積極的に意見を述べる機会の創設など、未来につながる計画に向けた展開を期待しております。

### 2. 目標の達成状況について

各施策の目標指標の推移では、目指すべき方向と実績値の方向が同一方向に向いていない指標が散見されることから、その対策など、次年度以降の取り組みに反映できるよう十分に検討していただきたいと思います。

### 3. 課題認識について

各分野において施策の課題や展望を再度確認するとともに、引き続き現状把握に努め、各評価委員の意見を参考に今後の解決策の検討を図っていただきたいと思います。

### 4. 総合評価と今後の方向性について

初年度の評価ということもあり、総合評価においては、指標への貢献度よりは、積極的にチャレンジした施策に高い評価であって、評価委員からも肯定的な意見が多数ありました。

今後は、各施策を進める所属において、事業の成果や効果など客観的に捉え、明るい施策の展望に向け、更なる進展を期待しております。

大槌町総合開発計画評価委員会

【資料】

大槌町総合開発計画評価委員会設置要綱

令和2年8月13日制定

(設置)

第1条 この要綱は、大槌町行政評価実施要綱第6条の規定に基づき、大槌町総合開発計画評価委員会（以下「委員会」という。）の設置に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 町が実施する行政評価の客観性及び透明性を確保するとともに、効率的かつ効果的な町政運営を推進する。

(所掌事務)

第3条 委員会は、次にに関する事項を所掌する。

- (1) 町が実施した行政評価結果について、町民の視点で必要な意見を述べる。
- (2) 行政評価制度の改善について、意見を述べる。

(組織)

第4条 委員会は、次に掲げるものから、町長が委嘱する。

- (1) 教育委員会から推薦を受けた教育委員
- (2) 漁協団体の代表
- (3) 冷協、加工団体の代表
- (4) 農協団体の代表
- (5) 商工団体の代表
- (6) 学識経験を有する者

2 委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、委嘱の日が属する年度末までとし、再任を妨げないものとする。

4 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が必要に応じて招集し、委員長はその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(報酬)

第7条 委員には報酬として、一回あたり3,000円を支払うものとする。

(費用弁償)

第8条 委員が委員会に出席した場合は、その費用を弁償する。

2 費用弁償の額は、車賃1キロメートル当たり25円とする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、企画財政課において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和2年8月13日から施行する。



令和2年9月  
大槌町総合開発計画委員会  
事務局 企画財政課